

平成 31 年度 定期総会開催



平成 31 年度の定期総会が 4 月 15 日に会員 98 名の出席のもと開催されました。開会に先立ち、昨年度亡くなられた中ブロックの富永喜代治さんと北ブロックの鈴木正良さんに対し黙祷が行われました。

総会の最初に大村眞佐夫会長より「まもなく年号が変わりますが、この『平成』の時代は自然災害が多くありました。浜松でも台風による大停電などがあり、自然に振り回されましたがその中でボランティアガイドの会員の皆様はよく頑張ってくれました。

会員数は 112 名で 9 名減となりました。今年度は 8 名が入会しましたが、以前に比べて応募者は約半分に減りました。会員の平均年齢は 72 歳となり、70 代が 5 割強を占めています。退職年齢が延び、定年後も働き続ける方が多い現状では、今後、新規会員の獲得はますます切実な課題となってきています。

担当する 4ヶ所での活動状況はほぼ直虎ブーム以前のものとなりました。5 月の風揚げのお手伝いは 20 年の歴史がありますが、毎年 100～150 人が支援しておもてなしをしっかりとやってくれています。今後 NHK の大河ドラマ『いだてん』では主人公がオリンピック招致をした田畑政治になりますし、ラグビーワールドカップが袋井市のエコパと豊田市のトヨタスタジアムであるので、浜松市に多くのお客様が訪れると期待されます。ボランティアはやらせていただきますという気持ちで行い、まず自分が楽しむとお客様も楽しんでくださいます」と挨拶がありました。

次に来賓の浜松市産業部観光・ブランド振興担当部長の石坂守啓様より「現在『そうだ京都行こう』の浜松版として 50 種類の商品開発をしています。『いだてん』やラグビーワールドカップのこともありますので、今後も皆様のご健康とご活躍を祈念します」とのご挨拶がありました。

議事に入り、平成 30 年度の活動報告、会計決算報告、監査報告があり、承認されました。役員の改選、新役員の紹介の後、平成 31 年度事業計画案および会計予算案の説明があり、質疑を経て承認されました。ひき続き永年勤続者の表彰があり、西ブロックの加藤承胤さんが 20 年特別表彰、13 名の方が 10 年表彰されました。終わりに新入会員 8 名が紹介され、総会は無事終了しました。

広報部 曾布川保（北ブロック）



来賓の皆様



20 年特別表彰
(2 期 加藤承胤さん)



10 年特別表彰のみなさん (12 期 13 名)

平成 31 年度総会に当たり「会員の皆さまへ」

浜松観光ボランティアガイドの会 会長 大村眞佐夫



新元号「令和」の施行が迫って参りました。当会は平成 11 年に誕生し令和元年秋に満二十年を迎えます。これまでの活動を振り返り未来に向け活動するための意識向上施策を計画しています。4 月末から計画の推進が始まります。諸氏の積極的な参加とご協力をお願いします。

今年度は 112 名の会員での活動になります。8 名の新加入をみるも対前年比 9 名減となりました。会員の平均年齢は 72.1 歳。中心となる年代が 60 代から 70 代で全体の 85% を占め、70 代の半分以上が 3 年位で 80 歳代に到達し、大幅な減員が想定されます。他方、応募者はこの 2 年間 10 人程度で推移し、このままでは 3 年位後には組織活動の縮小を来す危険が生じます。新規加入者の獲得策を考慮する時期が来たと危機を感じています。

平成 30 年度は、直虎ブームの沈静化に異常気象が絡み、浜松城、インフォメーション、まつり会館、犀ヶ崖資料館の 4 つの活動拠点で前年実績を下回り、一昨年実績程度に終わりました。他方、災害と称された長期の猛暑、3 回の台風の襲来、後遺症として大規模停電と、自然災害に踊らされました。厳しい気象条件のなか会員諸氏の責任ある行動は称賛に値します。ご苦勞様でした。地域活動も、風揚会場でのお手伝いは発足以来 20 年に渡り参加しています。参加会員は毎回 100 人を越し、お客様の評判も高く会として地域貢献に資していると思います。PR 施策として犀ヶ崖検定を実施。多くの応募があり合格者への認定証を交付して喜ばれ、同時に資料館の宣伝ができました。

今、浜松地域では観光や文化が産業と位置づけられ、静岡デスティネーションキャンペーンが浜名湖を中心に展開中で、ラグビー W 杯、次年度のパラ五輪と多くの地域施策が控えています。会としての関わり方について検討の必要を感じています。私は着任以来、組織として何ができるか夢を持ってきました。①皆で取り組む②風通しを良くする③見える化を図る④コミュニケーションの充実・報連相の推進⑤学習の場を多く作るなどです。まだ夢の状態ですが手応えは感じています。ボランティア活動の基本は奉仕です。まず自分が楽しさを知る事です。その楽しさをお客様に伝えることだと思っています。「やらしていただく」この心が大切です。「やってやる」これは法度です。自己研鑽に励み感性を磨き「明るく楽しくやらまいか精神で」お客様に楽しんでいただく、浜松の発信をしっかりと行い理解していただく活動を更に進化し、令和の世にも貢献できるよう取り組んでいきましょう。

新入会員現地研修会 ～家康の散歩道（前半）～

4 月 22 日、基礎講座を修了した新入会員 7 名が、研修部の桶田忠正さんのガイドで現地研修を実施しました。座学だけでは分かりにくい場所を、歩いて訪ねて目にして理解を深めることが目的で、まさに「百聞は一見にしかず」。遠州鉄道遠州病院駅前に集合、9 時 50 分出発。研修コースは以下のとおりでした。

徳川秀忠公誕生の井戸～浜松八幡宮～椿姫観音堂～天林寺～ホンダ発祥の地（蛇屋敷）～玄黙口～引馬城・東照宮～高札場跡（谷島屋書店前）～五社神社～心造寺～出丸跡（浜松中央図書館）～石川倉治石碑（日本点字創始者）～徳川家臣団鳥居元忠屋敷跡標柱～馬冷跡～鎧掛けの松。本丸南広場にて解散。

家康ゆかりの史跡、逸話が盛りだくさん。五社前通りでは浜松城 2 階にある城下町のジオラマを思い浮かべ、今昔の感慨あり。

あらためて資料を見直し、何度も歩いて検証し、自分なりのガイドブックを作ってお客様をおもてなしするのも良いでしょう。初夏の日差しに少し汗ばむほどでしたが、木々の新緑が清風を運び、約 2 時間半の充実した研修になりました。皆さんお疲れ様でした。



椿姫観音堂前

広報部 藤田礼子（中ブロック）

「令和」初の浜松まつりに協力参加

浜松観光ボランティアガイドの会は、「令和」初の浜松まつりのイベントとして、浜松まつり会館の芝生広場での記念写真撮影や風揚げ体験、また会館内の案内などに協力参加しました。

3日間の来客数は記念写真撮影コーナーが6,500人、風揚げ体験コーナーが2,527人でした。また、会員参加者数は延べ117人でした。

【5月3日】令和元年の浜松まつり、いよいよ開幕です。風揚げ体験コーナーでは、六帖の令和風と八帖の平成風を揚げる予定で、まずは令和風を揚げ始めていたのですが、なかなか揚がらず苦戦。お客様は次々といらっしゃるのに……。すると命山の東側にミッキー三帖風が姿を見せはじめました。「ミッキー風をあげます！体験の方はお集まりください！」の声でお客様が集結しました。それからは法被と軍手の貸し出しで大忙し。「楽しかった」「疲れた」「とても難しかった」等、雨のように感想が降ってきました。ミッキー風は昼過ぎに令和風とチェンジ。順調に令和風での体験がすすみました。体験終了の頃には急に風が強くなり風揚げ会場の風が何枚も糸が切れて、そのうちの数枚が体験会場近くに次々と落下しました。「落ちるぞー」と私たちはお客様を守ろうと大声で叫び注意しました。お客様にケガもなく無事終わることができて良かったです。



風揚げ体験の皆さん

広報部 中野典子（東ブロック）

【5月4日】浜松まつり会館・風紋広場では、ミニ風作り体験、出世太鼓体験、御殿屋台乗車体験の魅力あるイベントが企画されていました。その内、出世太鼓体験コーナーでは、たまたま風揚げ見物に



牧野太鼓ファミリーの太鼓演奏

来ていた牧野太鼓ファミリーの演奏を聴くことが出来ました。開館早々のことでしたが、余興的にしても素晴らしい演奏は通りかかるお客様の足を止め、皆さんも聞きほれていました。この演奏に刺激されたのか、午前一杯、子供連れのお客様の切れ目がなく、太鼓の体験を楽しんでいかれました。私も皆さんに写真撮影のお手伝いをし、思い出作りにお役に立てたと思います。

三年連続で浜松まつりの観光に来ているお客様からお話を伺いました。「まつりの見物も楽しいが、ミニ的に体験できるところが良い」とのご意見でした。中国地方からのお客様からは「神社仏閣系のまつりでないところが良い」とのお言葉もいただきました。

広報部 古本俊夫（南ブロック）

【5月5日】午前中は薄日で程よい風があり、午後は日差しが強く、暑くなりましたが、1日いい風揚げ日和でした。

記念写真撮影コーナーでは、主に男性が撮影コーナーへの呼び込み、写真撮影を、主に女性が法被の手渡し、返却された法被の整理を担当し、あわただしい1日でした。

9時過ぎから記念写真撮影コーナーにはお客様が徐々に増えてきて、市内はもちろん、市外・県外からと方々からおいでになり、小さいお子様連れの家族、若い人から高齢者のグループなど様々な年代の人がおいでになりました。

また、外国のお客様も日本の工場に研修に来ている人・大学生など（ブラジル、インドネシア、ベトナム、インドなど）をはじめ、旅行で来ているお客様（ロシア、フランス、バングラディッシュ、タイ、オーストラリア、アメリカなど）も大勢おいでになりました。ロシアからの若い女性是一人旅で、10日間の日本旅行の途中で浜松に立寄られ、フランスから見た子供連れの若い夫婦は、浜松まつりのことをインターネットで知って来たということでした。ただ、6日の中日新聞に「友達からどこでやってるか聞かれた。もっとネット上で宣伝してほしい」との外国人の英語教師の意見が載っており、気になりました。

記念写真は「記念になってよかった」と大勢の人に喜んでいただきました。

広報部 佐原正敏（中ブロック）



記念写真撮影コーナーにて

新入会員現地研修会 ～家康の散歩道（後半）～

4月29日、新入会員8名を対象に現地研修会が実施されました。研修部員等を含め総勢21名が浜松城公園駐車場に集合し、10時に出発しました。

例年通り亀山トンネルでラッキョウ軽便の歴史にふれた後、今年は散歩ルートを変更し、普済寺から西来院、宗源院、テレビ発祥の地、鷹野つぎの歌碑（浜松市立高校内）を巡り、奥山線線路址（遊歩道）を犀ヶ崖資料館が望める地点まで北上しました。ここで研修部長の鈴木利雄さんから「ここまで来てもらったのは、犀ヶ崖資料館と浜松城の位置関係を足で確認し、観光客に遊歩道への案内をしてもらいたかったから」とのコメントがあり、Uターンして、散歩には程よい気候で新緑の清々しさを満喫しながら予定の12時10分頃浜松城公園まで戻りました。

研修名所には、それぞれ由緒、見どころがあり、新入会員には初めて見聞きするポイントも多かったようですが、研修部の益田啓子さんの的確な楽しいガイドで、よく理解できたとのことでした。

尚、特記事項として、1つ目は、西来院で家康公正室の築山御前の廟所のお参り前に、本堂前の藤の花が満開で我々を迎えてくれたこと。2つ目は、宗源院にある三方ヶ原合戦で家康公の身代わりとなって戦死した成瀬藤蔵正義の墓では、鈴木利雄さんが、446回忌（平成30年12月22日）にご子孫28世により立てられた法要の卒塔婆を見つけ、成瀬谷での奮戦がより強く偲ばれたことが挙げられます。

広報部 植田善和（北ブロック）



西来院の藤の前で説明

4月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3箇所の他に「浜松駅観光インフォメーションセンター」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

複数回来場のあった団体

* 東海7名城と名古屋城本丸御殿	11回	526名
* クラブツーリズム	10回	372名
* 阪急交通社	10回	312名
* 東海さくら名所めぐり	6回	161名
* JTB 旅物語	3回	103名
2日 火 豊山町女性の会		25名
3日 水 国際ソロプチミスト浜松		32名
5日 金 浜松保育園		25名
8日 月 JTB（外国人）		41名
9日 火 みどり保育園		28名
天林寺保育園		25名
17日 水 NPO 法人海老名ガイド協会		31名
18日 木 遠州鉄道㈱		40名
北部中学校発達支援学級		28名
富士島桜講		41名

20日 土 石塚㈱・㈱トラスト	58名
21日 日 琴和会	35名
サザン・サウンド沖縄・大正琴	53名
23日 火 磐田市立磐田第一中学校	39名
24日 水 袋井市立袋井中学校発達支援学級	36名
静岡県立焼津中央高校	43名
磐田市立竜洋中学校	25名
袋井南中学校	38名
* 上記以外に24名以下の33団体	414名

《犀ヶ崖資料館》

14日 日 ボーイスカウト浜松第24団	13名
25日 木 磐田市立城山小学校	5名

《浜松まつり会館》

2日 火 ながら会ツアー	40名
4日 木 ながら会ツアー	43名
23日 火 湖西こでまり会	44名
* 日曜対応（7、14、21、28日）	424名

はままつ案内人会報 206号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946

浜松市中区元城町100-2（浜松城内）

TEL & FAX 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/



出世大名 家康くん

出世法師 直虎ちゃん

はままつ案内人

検索